

【表紙】

| | |
|------------|---|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 近畿財務局長 |
| 【提出日】 | 平成24年8月10日 |
| 【四半期会計期間】 | 第107期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日） |
| 【会社名】 | 京福電気鉄道株式会社 |
| 【英訳名】 | Keifuku Electric Railroad Co., Ltd. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 西田 寛 |
| 【本店の所在の場所】 | 京都市中京区壬生賀陽御所町3番地の20 |
| 【電話番号】 | (075) - 841 - 9385 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 管理本部長 長尾 拓昭 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 京都市中京区壬生賀陽御所町3番地の20 |
| 【電話番号】 | (075) - 841 - 9385 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 管理本部長 長尾 拓昭 |
| 【縦覧に供する場所】 | 京福電気鉄道株式会社 福井事務所 (福井市日之出1丁目6番14号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第106期 第1四半期連結 累計期間 | 第107期 第1四半期連結 累計期間 | 第106期 |
|---------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 会計期間 | 自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日 | 自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日 | 自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日 |
| 営業収益(百万円) | 2,822 | 2,871 | 11,647 |
| 経常利益(百万円) | 172 | 143 | 440 |
| 四半期(当期)純利益(百万円) | 132 | 141 | 302 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 145 | 141 | 307 |
| 純資産額(百万円) | 3,946 | 4,194 | 4,096 |
| 総資産額(百万円) | 16,052 | 15,720 | 16,544 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円) | 6.68 | 7.13 | 15.19 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円) | - | - | - |
| 自己資本比率(%) | 21.1 | 23.2 | 21.5 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災後の復興需要などにより、企業収益や個人消費に回復の動きが見られたものの、欧州債務危機や円高に加え、原子力発電所の稼働停止にともなう電力供給の制約などの不安要因が影響し、引き続き先行きに不透明感が残る経済環境のまま推移しました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、積極的な営業活動を推進し、業容の拡大と収益基盤の強化に努めました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は2,871百万円（前年同期比49百万円、1.8%増）となり、営業利益は163百万円（前年同期比26百万円、13.9%減）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は143百万円（前年同期比28百万円、16.4%減）となり、特別利益および特別損失ならびに法人税等を加減した四半期純利益は141百万円（前年同期比8百万円、6.7%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

運輸業

鉄軌道事業におきましては、昨年の東日本大震災の発生にともなう観光旅客等の減少は沈静化に向かい、春季の観光シーズンを中心に順調に増加したことなどにより、前年同期に比べ増収となりました。

嵐山線では、ICカードシステムの整備に努め、鉄道ネットワークの拡充を図るなか、旅行エージェントと提携し、修学旅行・個人旅客等の誘致に努めたほか、沿線社寺との連携やイベント電車の運行など各種利用促進策を実施し、嵐電利用旅客の拡大に努めました。鋼索線では、夏本番を控え、節電対策を兼ねた比叡山の夏の納涼をPRし、誘客のための諸施策を実施しました。

バス事業におきましては、京都バス(株)は、一部路線の縮小等を実施する一方、新たな需要開拓に向けた新規営業路線を開設するなど、輸送の効率化と利用促進に鋭意取り組みました。京福バス(株)は、路線バス事業では、既存路線・コミュニティバスにおいて、お客様の要望を反映した発着時刻への変更や運行経路の見直しを実施したほか、乗車券発売所の新設やフリー乗車券の取扱所の増設にも取り組み、お客様の利便性の向上に努めました。

タクシー事業におきましては、一昨年3月に福井地区の京福グループ・タクシー3社が導入した高齢者割引制度の2周年記念キャンペーンを実施するなど、積極的な加入促進活動に努めた結果、会員数が順調に増加しました。

以上の結果、運輸業の営業収益は1,941百万円（前年同期比38百万円、2.0%増）となり、営業利益は84百万円（前年同期比15百万円、15.4%減）となりました。

(鉄軌道事業の運輸成績)

| 種別 | 単位 | 当第1四半期 連結累計期間 (24.4.1～24.6.30) | | |
|--------|-----|--------------------------------------|-------------|-----|
| | | | 対前年同期増減率(%) | |
| 営業日数 | 日 | 91 | 0.0 | |
| 営業キロ程 | キロ | 12.8 | 0.0 | |
| 車両走行キロ | 千キロ | 257 | 2.8 | |
| 輸送人員 | 定期 | 千人 | 479 | 2.2 |
| | 定期外 | " | 1,493 | 9.5 |
| | 計 | " | 1,973 | 6.4 |
| 旅客運輸収入 | 定期 | 百万円 | 44 | 4.4 |
| | 定期外 | " | 282 | 9.7 |
| | 計 | " | 326 | 7.5 |
| 運輸雑収 | " | 19 | 6.5 | |
| 運輸収入合計 | " | 346 | 7.5 | |
| 乗車効率 | % | 32.9 | 8.6 | |

(業種別営業成績)

| 種別 | 当第1四半期連結累計期間 (24.4.1～24.6.30) | |
|--------|----------------------------------|----------|
| | 営業収益 | 対前年同期増減率 |
| | 百万円 | % |
| 鉄軌道事業 | 346 | 7.5 |
| バス事業 | 1,275 | 2.1 |
| タクシー事業 | 341 | 6.3 |
| 消 去 | 22 | - |
| 計 | 1,941 | 2.0 |

不動産業

不動産分譲事業におきましては、(株)京福コミュニティサービスが滋賀県草津市の土地を完売したほか、福井県あわら市の分譲宅地の早期完売を目指した営業活動に引き続き取り組みました。

不動産賃貸事業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」では、お花見の時期やゴールデンウィークを中心にイベントの実施や人気の高い臨時売店を誘致するなど、お客様の来店機会の拡大に努めました。

「BOAT RACE 三国」では、外向発売所において場外発売日数を増やすなど、継続した増収対策に取り組むとともに、ボートレース場施設の保守管理に努め、お客様が快適にレース観戦ができる環境の提供を目指しました。

以上の結果、不動産業の営業収益は588百万円（前年同期比47百万円、8.8%増）となり、営業利益は91百万円（前年同期比5百万円、6.7%増）となりました。

（業種別営業成績）

| 種別 | 当第1四半期連結累計期間 (24.4.1~24.6.30) | |
|---------|----------------------------------|----------|
| | 営業収益 | 対前年同期増減率 |
| | 百万円 | % |
| 不動産賃貸事業 | 674 | 13.0 |
| 不動産分譲事業 | 6 | 74.6 |
| 消 去 | 91 | - |
| 計 | 588 | 8.8 |

レジャー・サービス業

飲食業におきましては、消費者の節約志向や外食を控える傾向が続くなか、各店舗において消費者ニーズに対応した商品の開発、接客サービスの向上やコストの削減等に引き続き取り組みました。名古屋ルーセントタワー内の「吉珍樓(キッチンロウ)」では同タワー内でのケータリングサービス（会議食事等の提供）をはじめとするさらなる営業活動を積極的に実施し、安定的な収入を確保しました。

物販業におきましては、フラワーショップ「BOOM(ブーン)」でウェブサイトを利用した商品販売が好調に推移したほか、昨年に引き続き、母の日に「スパコ・JR京都伊勢丹」内に臨時出店し、集客とPR活動に取り組みました。

越前松島水族館におきましては、「おさかな館」のリニューアル効果が持続するなか、「ペンギん館」や「海洋館」その他各種体験型施設の魅力の積極的な宣伝活動に努め、前年同期を上回るお客様にご来館いただきました。

また、ホテル事業におきましては、三国観光ホテルでの企業研修利用件数の減少などから宿泊人員が低調に推移し、減収となりました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は487百万円（前年同期比43百万円、8.2%減）となり、営業損失は14百万円（前年同期は2百万円の営業利益）となりました。

（業種別営業成績）

| 種別 | 当第1四半期連結累計期間 (24.4.1~24.6.30) | |
|-------------|----------------------------------|----------|
| | 営業収益 | 対前年同期増減率 |
| | 百万円 | % |
| ホテル業・水族館業 | 223 | 9.7 |
| 飲 食 業 | 71 | 12.2 |
| 物 販 業 | 157 | 3.1 |
| 広 告 代 理 店 業 | 27 | 13.0 |
| そ の 他 | 29 | 13.1 |
| 消 去 | 21 | - |
| 計 | 487 | 8.2 |

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 80,000,000 |
| 計 | 80,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成24年8月10日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|-----------------|
| 普通株式 | 20,000,000 | 20,000,000 | 大阪証券取引所 市場第二部 | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 20,000,000 | 20,000,000 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数(株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金増 減額(百万円) | 資本準備金残 高(百万円) |
|--------------------------|-------------------|------------------|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| 平成24年4月1日～ 平成24年6月30日 | | 20,000,000 | | 1,000 | | 270 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

| 区分 | 株式数（株） | 議決権の数（個） | 内容 |
|----------------|-----------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式（自己株式等） | - | - | - |
| 議決権制限株式（その他） | - | - | - |
| 完全議決権株式（自己株式等） | 普通株式 96,000 | - | - |
| 完全議決権株式（その他） | 普通株式 19,721,000 | 19,721 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 183,000 | - | - |
| 発行済株式総数 | 20,000,000 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 19,721 | - |

（注）「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式が306株含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数（株） | 他人名義所有株式数（株） | 所有株式数の合計（株） | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%） |
|------------|---------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| 京福電気鉄道株式会社 | 京都市中京区壬生賀陽御所町3番地の20 | 96,000 | - | 96,000 | 0.48 |
| 計 | | 96,000 | - | 96,000 | 0.48 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,345 | 1,216 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,161 | 849 |
| 有価証券 | 550 | 200 |
| 販売土地及び建物 | 35 | 31 |
| 商品及び製品 | 25 | 29 |
| 仕掛品 | 38 | 7 |
| 原材料及び貯蔵品 | 61 | 57 |
| 前払費用 | 35 | 36 |
| 繰延税金資産 | 16 | 37 |
| その他 | 76 | 123 |
| 貸倒引当金 | 11 | 11 |
| 流動資産合計 | 3,334 | 2,578 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 8,065 | 7,967 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 944 | 944 |
| 土地 | 2,454 | 2,456 |
| リース資産(純額) | 768 | 814 |
| 建設仮勘定 | 97 | 105 |
| その他(純額) | 221 | 207 |
| 有形固定資産合計 | 12,551 | 12,495 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 89 | 85 |
| 無形固定資産合計 | 89 | 85 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 216 | 216 |
| その他 | 323 | 317 |
| 投資その他の資産合計 | 540 | 534 |
| 固定資産合計 | 13,182 | 13,116 |
| 繰延資産 | | |
| 社債発行費 | 27 | 25 |
| 繰延資産合計 | 27 | 25 |
| 資産合計 | 16,544 | 15,720 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 65 | 69 |
| 短期借入金 | 4,017 | 3,610 |
| 1年内償還予定の社債 | 420 | 420 |
| 未払金 | 656 | 359 |
| 未払法人税等 | 96 | 16 |
| 未払消費税等 | 65 | 74 |
| 賞与引当金 | 227 | 84 |
| その他 | 623 | 953 |
| 流動負債合計 | 6,173 | 5,588 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 1,363 | 1,278 |
| 長期借入金 | 2,855 | 2,582 |
| リース債務 | 648 | 678 |
| 長期未払金 | 679 | 680 |
| 繰延税金負債 | 169 | 170 |
| 退職給付引当金 | 230 | 225 |
| 役員退職慰労引当金 | 113 | 108 |
| その他 | 212 | 212 |
| 固定負債合計 | 6,273 | 5,937 |
| 負債合計 | 12,447 | 11,526 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,000 | 1,000 |
| 資本剰余金 | 270 | 270 |
| 利益剰余金 | 2,261 | 2,363 |
| 自己株式 | 13 | 14 |
| 株主資本合計 | 3,518 | 3,620 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 30 | 21 |
| その他の包括利益累計額合計 | 30 | 21 |
| 少数株主持分 | 547 | 552 |
| 純資産合計 | 4,096 | 4,194 |
| 負債純資産合計 | 16,544 | 15,720 |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 営業収益 | 2,822 | 2,871 |
| 営業費 | | |
| 運輸業等営業費及び売上原価 | 2,598 | 2,675 |
| 販売費及び一般管理費 | 34 | 32 |
| 営業費合計 | 2,632 | 2,708 |
| 営業利益 | 190 | 163 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 0 | 0 |
| 受取配当金 | 3 | 3 |
| 雑収入 | 8 | 6 |
| 営業外収益合計 | 11 | 10 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 25 | 23 |
| 社債発行費償却 | 1 | 1 |
| 雑支出 | 2 | 4 |
| 営業外費用合計 | 29 | 29 |
| 経常利益 | 172 | 143 |
| 特別利益 | | |
| 補助金 | 6 | 3 |
| 固定資産売却益 | - | 4 |
| 特別利益合計 | 6 | 7 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 179 | 151 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 15 | 15 |
| 法人税等調整額 | 14 | 14 |
| 法人税等合計 | 30 | 0 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 148 | 151 |
| 少数株主利益 | 15 | 9 |
| 四半期純利益 | 132 | 141 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 148 | 151 |
| その他の包括利益 | | |
| 其他有価証券評価差額金 | 3 | 10 |
| その他の包括利益合計 | 3 | 10 |
| 四半期包括利益 | 145 | 141 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 130 | 132 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 15 | 8 |

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響額は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日) |
|-------|---|---|
| 減価償却費 | 230百万円 | 223百万円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|--------|--------------|------------|------------|-------|
| 平成23年6月22日 定時株主総会 | 普通株式 | 39百万円 | 2.00円 | 平成23年3月31日 | 平成23年6月23日 | 利益剰余金 |

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|--------|--------------|------------|------------|-------|
| 平成24年6月20日 定時株主総会 | 普通株式 | 39百万円 | 2.00円 | 平成24年3月31日 | 平成24年6月21日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|------------------------|---------|------|----------------|-------|-------------|-------------------------------|
| | 運輸業 | 不動産業 | レジャー・ サービス業 | 計 | | |
| 営業収益 | | | | | | |
| (1) 外部顧客への営業収益 | 1,896 | 471 | 454 | 2,822 | - | 2,822 |
| (2) セグメント間の内部営業収益又は振替高 | 6 | 69 | 76 | 152 | (152) | - |
| 計 | 1,902 | 541 | 531 | 2,974 | (152) | 2,822 |
| セグメント利益 | 99 | 85 | 2 | 188 | 1 | 190 |

(注)1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 |
|------------------------|---------|------|----------------|-------|-------------|-------------------------------|
| | 運輸業 | 不動産業 | レジャー・ サービス業 | 計 | | |
| 営業収益 | | | | | | |
| (1) 外部顧客への営業収益 | 1,935 | 525 | 410 | 2,871 | - | 2,871 |
| (2) セグメント間の内部営業収益又は振替高 | 6 | 62 | 76 | 146 | (146) | - |
| 計 | 1,941 | 588 | 487 | 3,017 | (146) | 2,871 |
| セグメント利益又は損失() | 84 | 91 | 14 | 161 | 2 | 163 |

(注)1 セグメント利益の調整額2百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|----------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 6円68銭 | 7円13銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(百万円) | 132 | 141 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(百万円) | 132 | 141 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 19,905 | 19,903 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月10日

京福電気鉄道株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 坂井 俊介 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平岡 義則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている京福電気鉄道株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、京福電気鉄道株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。